

# CASBEE® 新築 [簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	倉庫A棟	階数	地上1F
建設地	京都府舞鶴市宇下安久1035番	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 竣工	評価の実施日	2014年1月31日
敷地面積	13,627 m <sup>2</sup>	作成者	総毛 正史
建築面積	3,978 m <sup>2</sup>	確認日	2014年2月4日
延床面積	3,978 m <sup>2</sup>	確認者	総毛 正史



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.1** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

個別計算

- ① 参照値: 100%
- ② 建築物の取組み: 86%
- ③ 上記+②以外の: 36%
- ④ 上記+: 21%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量を評価者自身の計算(個別計算)により算出した結果を示しています。LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート(個別計算)」を参照されたい

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・配置計画として、敷地周囲は緑地帯(緩衝帯)を設けていること、中央部へ専路を設け、作業・通行動線を極力短くすることによって周辺地域へ排気ガス等の大気汚染が流れないようにしている。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> ・音環境については、出入口を準防音仕様とし遮音性を高めている。 ・温熱環境については、屋根二重折板を採用し夏季の庫内環境(温度)を抑制している。 ・空気質環境については、庫内仕上げ材より化学物質が発生しない材料(告示対象外)を採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・機能性については、対候性に優れた材料を採用し維持管理に配慮した計画としている。 ・耐用性については、耐久性に優れた材料を採用している。 ・対応性・更新性については、各所押とりを持った計画としている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・接道部・隣地側へ緑地帯を配備し、まちなみ・景観へ配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・照明器具は全てLEDを採用しており、高効率化を図っている。 ・維持管理については、社内で取り決められたものがあり、それに準じて対応している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・再生骨材を利用している。 ・躯体と仕上げ材は主にビス固定、各種設備配線等は露出としており、再生利用可能性向上への取り組みを行っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・地域インフラへの負荷抑制(交通負荷抑制)のために必要な位置(敷地内)へ駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される